

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	2	学校名	岐阜北高等学校
------	---	-----	---------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	高い進路目標を掲げ、幅広い知識と教養を培う高校として 企業や大学等とハイレベルに連携・協働した探究的な学びを通して 判断力や行動力、広い視野を身に付けた次世代の社会を担うグローバル・リーダーの育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	(1) 知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する (2) 確かな学力を身に付け、創造的思考力と主体的実行力とを併せ持つ生徒を育成する (3) 高い志とグローバルな視野を持ち、自身の夢の実現と地域社会の持続可能な発展に貢献できるたくましい実践力を備えた人間性豊かな生徒を育成する (4) 倫理観や規範意識に基づく社会性を育むとともに、他者を思いやる心に富む生徒を育成する (5) 健康維持や体力づくりを推進し、自他の生命を尊重できる生徒を育成する		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	「荒野をひらく探究人」 ・ 自己の哲学の礎を築き、粘り強く物事に取り組める生徒 【自分を啓く】 ・ 知に貪欲になり、主体的・創造的に探究できる生徒 【自ら拓く】 ・ 多様な他者と協働し、課題解決できる生徒 【ともに拓く】	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	「社会に開かれた教育課程」による「探究人」の育成 ・ 必修科目及び「思考力」「判断力」「表現力」を重視する共通テスト対象科目を学力向上のコア科目(必須科目)として発達段階に応じて配置 ・ 生徒の進路志望や興味関心に対応し、学校設定科目を含む多様な選択科目の充実 ・ 「総合的な探究の時間」等を通して、地域の課題解決など、自らテーマを設定して探究する学びの推進 ・ 各教科等においては、実社会との接点や教科横断的な学びを重視した「対話的」で「探究的」な「深い学び」の実践 ・ 生徒1人1人等のICT環境や、県の指定事業等を利用し、地域や外部機関との積極的な連携と協働の実施	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	・ 北高のグラデュエーション・ポリシー（「荒野をひらく探究人」）を理解し、高い志とグローバルな視野を持って学ぼうとする意欲のある生徒	
学校の抱える課題	・ 生徒自身が探究的な思考を備え、何事にも主体的に行動し、課題解決に取り組む姿勢の育成 ・ 個に応じた丁寧な進学指導及び早い段階から進路意識を高める指導による生徒の希望をかなえる進路指導の実践 ・ 県事業「地域課題探究型学習推進事業（理数教育型）」を活用したハイレベルな探究活動を主体的に実践させることなどを通じた探究心豊かな人間性の育成 ・ 品格と主体性を重んじた学校生活の推進 ・ 常に学ぶことを忘れない教師の意識の醸成及び職員の働き方改革の推進		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学校経営	① 研修等を通して教員の教科指導力をさらに向上する ② 働き方改革をさらに推進する	
	学習指導	① 「確かな学力」と「社会を生き抜く力」を身に付けさせる教科指導を充実させる ② 生徒一人一人の能力や適性を的確に把握し、個に応じた教科指導に努める	
	進路指導	① 自己の生き方を主体的に考え、高い目標を実現しようとする生徒を育成する ② 三年間を見通し、個々の生徒に応じた進路指導を推進する	
	生徒指導	① 教育目標、スクールポリシー実現のための積極的「生徒指導と教育相談」を充実させる ② 生徒と教職員、保護者と教職員、教職員同士の対話、コミュニケーションを大切にする	

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
学校経営	職員が相互に学びあう姿勢で業務にあたり、積極的な研修等への参加によりスキルアップを図る	施策IV-26	①生徒・保護者対象アンケートの分析
	職員がメリハリをつけた業務マネジメントに尽力し、心身の健康を完全に保つ	施策IV-27	
学習指導	基礎・基本を習得し、思考力・判断力・表現力を伸長する	施策II-8	①生徒・保護者対象アンケートの分析 ②生徒による授業アンケートの分析 ③考査や実力テストの分析 ④教師間の相互授業評価
	教科連携した教科横断的な学習の推進及び主体性を育成する	施策II-8	
	個に応じた教科指導を実践する	施策II-8	
	開かれた学校づくりに取り組む	施策I-7	
進路指導	生徒個々の能力・適性を十分把握し、三年間を見通したキャリア教育を実践する	施策II-13	①生徒・保護者対象アンケートの分析 ②ポートフォリオ等のアンケート配信回数 ③校内模試・実力テスト・外部模試の結果分析 ④会終了後の総括・分析、進路実績
	生徒が自らの生き方を探究し、高い目標を実現しようとする意欲・態度や能力を育成する	施策II-11	
	各年次に応じた進路情報を正確かつ迅速に提供し、進路検討を深める機会の充実を図る	施策II-13	
	保護者や地域への積極的な情報発信、情報共有に努める	施策IV-20	
生徒指導	お互いをかけがえのない存在として認め、尊重し、命の大切さを実感できる取り組みを充実する	施策I-2	①生徒・保護者対象アンケートの分析 ②各研修の実施回数、各講話の実施回数、統一LHRの実施回数、関係機関の刊行物の活用回数及び発行回数 ③交通事故・交通違反の件数、街頭指導の回数 ④いじめの認知件数、いじめ防止等対策検討会議実施回数 ⑤教育相談週間実施回数、スクールカウンセラー等活用事業の活用回数と要望に対する実施率、心のアンケート実施回数 ⑥生徒心得やガイドライン等の見直しを図ったか否か
	いじめを許さない学校づくり、学級づくりを進め、生徒一人一人を大切に作る	施策I-3	
	社会通念上の必要性、人格的自律、法的責任を必要最低限の基準とし、自ら判断し、場にふさわしい行動がとれる生徒を育成する	施策I-1	
	教育相談活動を充実させ、個々の生徒に対して適時・適切で具体的な支援を行い、必要に応じて外部機関とも連携する	施策I-1	
	生徒心得等は、学校ホームページに掲載し教職員や生徒・保護者、関係機関等に周知を図るとともに、見直し・改善を図る	施策I-7	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年1月9日

【学校経営】	全業務をゼロベースで見直しスリム化を図ることで教職員の働き方改革をさらに進める。
【学習指導】	授業中心の学習指導体制を維持し、相互授業参観や公開授業、研修参加を通して教職員の指導力の向上を図る。生徒や保護者への情報は、より丁寧に説明を行うとともに、情報発信力を高めるための工夫を検討する。
【進路指導】	進路行事の意義を伝え、本校の伝統を継承することと時代に合わせた変革の両立を図る。キャリア教育の大きな流れの中において、高校での進路指導のあるべき姿を追究し、生徒を育成していく。
【生徒指導】	生徒の抱える問題に対して組織で対応していく体制づくりをさらに徹底する。「いじめ」対応等の情報を保護者へ周知し、より丁寧に説明することを継続的に実施する。自転車での交通事故が多く発生している。ヘルメットの着用率が向上する指導を工夫する。

年度末評価(自己評価)			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
教職員の研修参加は年間でのべ68件あり、多くの教員がスキルアップを図ることができた。生徒アンケートでの「先生は、生徒のために一生懸命である」はAB評価97.1%（前年比+2.3）の高評価を得た。保護者アンケートでの「教職員は、学校経営や教育活動に熱心に取り組んでいる」はAB評価90.9%（+0.7）の高評価を得た。	B	○教職員が研修などを通して、質の高い授業や指導ができています。 業務のスリム化を意識しながら働き方改革を進めることができた。 ▲時間外勤務時間の多い教員がまだまだ多い。教職員のスキルアップのために、校内外における研修への参加を更に進めていきたい。	B
教職員が相互に授業参観を行う「チアアップ参観」や公開授業の実施、県総合教育センターが開催する様々な研修講座への参加など、指導力向上に取り組む教職員の姿勢は、生徒アンケート「丁寧で分かりやすい」AB評価84.6%（前年比+3.4）や、保護者アンケート「授業を通して、生徒の学力伸長に取り組んでいる」AB評価87.9%（+2.0）、「一人ひとりの能力に応じた指導を行っている」AB評価74.8%（+3.8）という結果につながった。一方で、「外部との連携を生かした教育活動に積極的である」、「臨時休校等の際にICT機器を活用した学習支援を積極的に実施している」の2項目についてはE評価（わからない）が増えており、周知が必要である。	B	○教職員個々の指導力向上のための努力や学校全体として相互授業参観や公開授業、研修講座参加を推進してきた成果が、生徒に還元できており、生徒・保護者ともに満足度は高かった。さらに向上させていきたい。 ▲アンケート結果のE評価が増えたのは①学習評価方法②外部連携③ICT機器を活用した学習支援の3点があげられる。「実施しているのに伝わっていない」部分があるため、各教科や学校からより丁寧な説明を行うとともに、情報発信力を高めていくための工夫について検討していきたい。	
校内模試・実力テスト・外部模試の運営、検討会や推薦委員会の運営、夏期補習・土曜補習やキャリア教育講演会の実施等、計画した企画を全て実施した。業務のスリム化を検討し、着手している。生徒対象アンケートの結果「進路指導が自分の希望に沿っている」AB評価が91.9%と高評価であった。保護者対象アンケートの結果「進路情報を提供する場を設けている」AB評価が93.8%（前年比+2.2）、「生徒が進路を考える機会を提供している」AB評価が89.1%（-0.5）と良かった。担当者が変わっても運用できる仕組み作りと積極的な施策の工夫が必要である。	B	○今年度も大きなミスなく計画を実行し、時機を逃さずClassiやYouTube、北高Todayや進路だより「北斗の指標」で情報を発信できた。推薦入試の指導に係る業務を中心に、業務のスリム化と負担の平準化を考えて取り組み始めることができた。 ▲今後は取り組みについてアンケートを実施し、次年度に向けて改善していく予定である。 進学校としての進路行事の意義を伝え続けて、伝統を継承することと時代に合わせて変革していくことの両立を課題とする。 キャリア教育の大きな流れの中において、高校での進路指導のあるべき姿を追究し、生徒を育成していきたい。	
人権統一LHR「いじめ」1回、SCによるLHR「SOSの出し方に関する教育」1回/人権講話「性って2つだけ～多様な性のあり方について～」1回/「命の大切さを学ぶ教室（交通安全及び闇バイトについて）」1回を実施した。交通事故発生件数21件（※12月末現在）/街頭指導19回を行った。いじめの認知件数5件/いじめ防止等対策検討会議実施回数2回（予定含む）/教育相談週間実施回数2回/スクールカウンセラー等活用事業の活用回数10回（※12月末現在）要望に対する実施率100%/スペシャリストサポート事業活用実施回数6回、要望に対する実施率100%/心のアンケート実施回数4回を実施した。生徒心得やガイドラインは次年度に向けて見直しは行ったが改訂はしていない。保護者対象アンケートの結果から、「いじめや差別を許さず、厳格に対処している」でE評価（わからない）が32.8%であり、保護者への周知が必要である。	B	○生徒の視点から「いじめ」について考える人権LHRが3回目となり、学校全体でいじめを人権問題として捉える動きが定着化しつつある。 スクール相談員やSCの活用も充実しており、いじめに限らず、生徒の抱える問題に組織で対応する体制を今後も維持していく。 ▲アンケート結果からみえた課題については、学校HPに掲載している、いじめ防止基本方針やいじめ対応フローチャート等の周知だけでなく、年度当初の保護者への説明を今後も丁寧に継続していくことで解消していくとともに、保護者への情報発信の工夫をしたい。 交通事故発生件数は昨年度並みであるが、自転車対自動車の接触事故が多い。幸い大事にいたる事故はなかったが、事故を起こした生徒の大部分がヘルメット未着用であり、着用率の向上が課題である。MSリーグ、野球部と生徒指導部で着用率向上に向けて取り組んでいく。	

学校関係者評価

実施日：令和8年1月23日

・探究活動の発表会を他校と連携して行っており、生徒の刺激となっている。
・「いじめ」防止の啓発活動として場面想定ビデオを作成されたのはすばらしい。
・学校評価アンケートの生徒の回答率が低いのは、生徒の当事者意識が低いからではないか。期日を守る、規律や交通マナーなど、社会に出てからやるべきことを今のうちに学んでほしい。
・世界に目を向け世界の状況を知る人を育ててもらいたい。海外の大学進学や留学も含めたキャリア教育を実践してほしい。
・親の貧困について話せる環境づくりをしてほしい。
・その人の特性で、できないことや苦手なことがあるので、その特性を理解できるリーダーを育てることを大切にしてもらいたい。